

## (2) 狭山市学校支援ボランティアセンター

団	事務局	住所 埼玉県狭山市狭山台4-26 (狭山市立狭山台中学校内) TEL 04-2927-1395		
	設置年	平成19年	会員数	20名 (運営委員)
体	目的	児童生徒の保護者及び地域の住民が連携し、地域の教育力を生かして、ボランティアとして小中学校の活動を支援し、学校教育の充実や地域に開かれた学校づくりの実現を目的にセンターを設置する。		
コ ー デ ィ ネ ー タ ー	人数	30名		
	主な 経歴	狭山市では高齢者生きがいをづくりの理念から生まれた「狭山シニア・コミュニティ・カレッジ (SSCC)」(平成12年度開講)という学びの場がある。このカレッジはそこで得た知識や今までの経験を生かして、修了後引き続き地域社会の一員として活躍することを目的としている。平成14年度に同窓会が自主的に組織され、その中の一つの部会が「学校支援部会」として地域に密着した学校支援活動をスタートさせ、コーディネーターが誕生した。		
	活動 状況	随時	活動 拠点	狭山市内27小中学校

### 組織について

狭山市学校支援ボランティアセンター(略称SSVC)は、学校支援を総合的にコーディネートするために狭山市教育委員会で設置した機関である。運営は市教育委員会から「狭山シニア・コミュニティ・カレッジ同窓会」が受託し、ボランティアスタッフで運営している。事業費は700千円である。

#### ○運営

運営委員会を月1回定例開催する。運営委員の選任はSSVCで選任し、教委所管課と同窓会の同意を得る。委員会には教委所管課、同窓会役員も出席する。委員会はセンターの決議機関であり、各学校の要請事項の確認、研修会開催や支援者人材バンクの運営、広報等各領域別の課題の検討を行う。

また運営委員会とは別に「諮問会議」を置き、広く識者の意見、助言、提言を受け運営の参考としている。年に1~2回開催し、メンバーは教育委員会、大学教員、小・中学校教員、PTA、おやじの会のメンバー等に依頼している。

センターにはセンター長1名、事務局長1名を置く。さらにセンター事務局に専任事務員を置き、毎週月・火・金曜日13時~16時の間、主に相談窓口として対応している。

(諮問会議の様子)



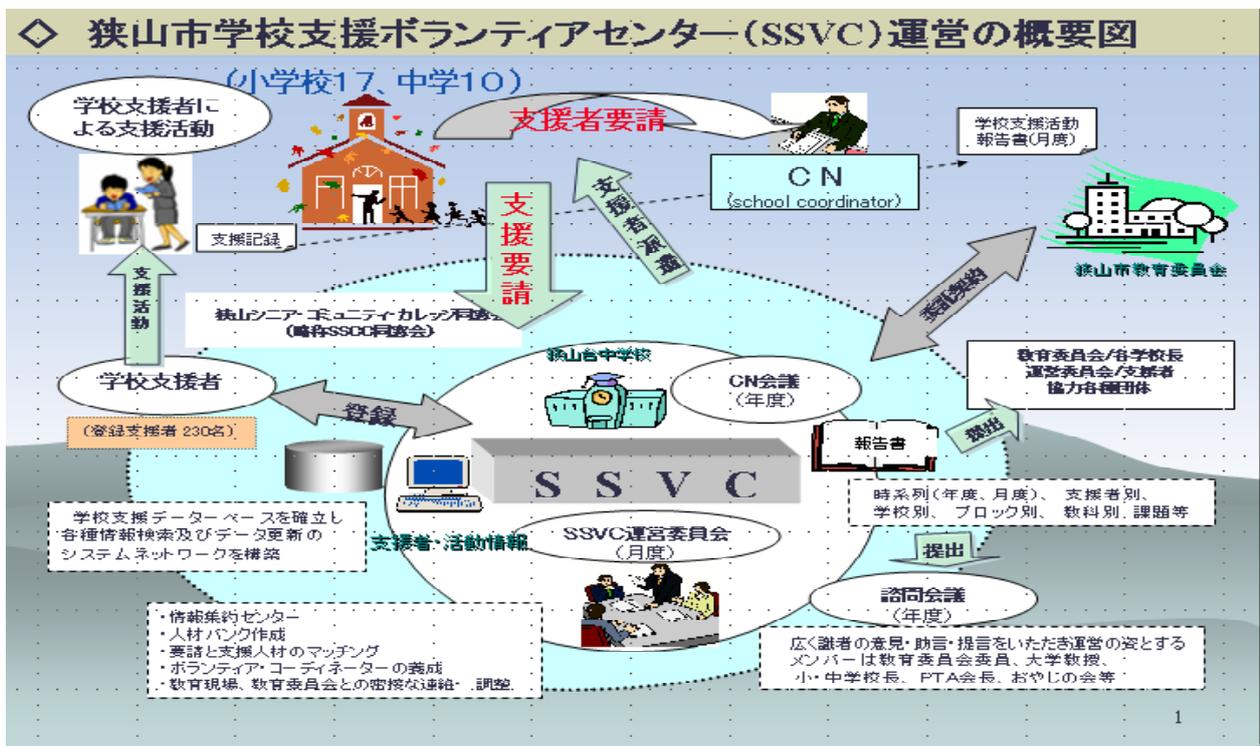
その他運営委員とスタッフが若干名、会計1名、会計監査2名を置いている。これらのスタッフが総務・会計G、活動支援G、情報集約G、人材バンクG、広報Gの5つのグループに分かれて業務を分担し遂行している。主な事業内容は以下のとおりである。

### ○事業内容

- ①学校支援業務に関する情報の集約・発信をする。
- ②学校支援ボランティアバンクの設置と運営をする。
- ③学校からの支援要請に基づくボランティアの調整と派遣を行う。
- ④学校支援ボランティアやコーディネーターの育成を行う。

具体的には、総務・会計Gが運営委員会の運営や予算・経費会計、備品管理、保険管理等を扱い、活動支援Gは学校連絡調整やコーディネーター支援を主に担当し、コーディネーター会議や支援者懇談会の企画、運営を行っている。情報集約Gは調査と支援記録の整備などファイル管理を行い、人材バンクGは人材バンクの見直しとコーディネーターや支援者の養成や研修、活動のマニュアルの作成等を行っている。広報Gは広報紙やパンフレットなどを作成し情報を発信している。このようにグループごとに業務を分担し、拡大する学校支援要請に円滑に対応するため組織化し、システム化しながら事業を展開している。また、センターでは関係者が最新情報を共有し活用できるようにするため、インターネットを活用し、各会議議事録や各種関係帳簿、その他関連情報ファイルを閲覧利用できるようにしている。

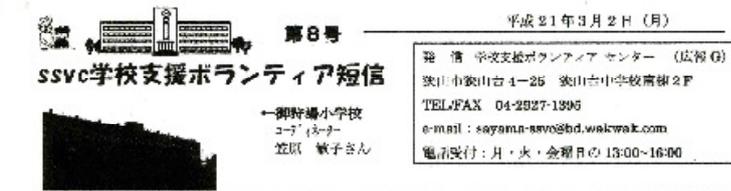
### ◇狭山市学校支援ボランティアセンター（SSVC）運営の概要図



## ○コーディネーターへの支援

- ・年3回コーディネーター会議を開催し、情報交換を行う。
- ・「学校支援ボランティアセンター短信」を毎月発行し、コーディネーターに配信する。コーディネーターは場合によっては、担当校や担当地区の支援者にさらに配信し、情報を共有する。
- ・研修会を実施し、コーディネーターのスキルアップを図る。20年度は「学校とボランティアコーディネーターの役割と育成」というテーマで講演とシンポジウムを行った。  
(研修会の企画)

(学校支援ボランティア短信の一部)



◆「学校応援研修会」開催！  
2月18日(水)教育センターに於いて表紙研修会を学校応援推進委員会とSSVCの協働で開催、約80名の参加者を得て栗沼先生の演題「コーディネーターの役割と可能性」は特筆を得たものになりました。楽しい言葉で大変分かりやすく、先生の豊富なご経験と実例を基に話を進められ勉強になりましたと同時に課題も提示されました。  
講演後のシンポジウムは先生の司会で各パネリストから率直な現況報告がされました、時間は少々押しましたが、参加されたCNの方々にとって実り多い研修会となりました。参加しなかった方には次回CN会議で資料を配布します。(センター長 坂井)

を置くことにしました。詳細は3月16日のCN会議で報告をします。(センター長 坂井)  
◆富士見小学校「昔の遊び」授業支援  
2月6日(金)、1年生130名を対象に授業支援を行いました。子ども達と支援者は、折り紙のカブトをかぶりタイムスリップ！子ども達は「平成から昭和へ」、支援者は「マイナスイオン」まじり意気に遊び、昔の遊びを楽しみ、子ども達に、その思いを伝えました。  
最後に、子ども達から、お礼にお手紙と学年書でた朝顔の種を、学校側から支援への感謝の言葉を戴き終了しました。今回の支援者は35名、SSVCの方、地域の方、シニアカレッジ現役・そのOHの方、シニア方面にお入り方(福寿会の方)も参加しました。

## コーディネーションの実際

センター(SSVC)では、市内各小中学校27校に、コーディネーターを1~2名配置している。これらのコーディネーターは活動の要請を受け、人材バンクから支援者を確保し学校に知らせる。該当するボランティアがいない場合は、速やかにSSVCに連絡して対応している。SSVCでは支援者を見つけ、コーディネーターに紹介している。人材バンクは現在約300名の登録があるが、SSVC(狭山シニア・コミュニティカレッジ)を修了したメンバーに修了時に「学校支援ボランティアアンケート」を実施し、支援者として人材バンクへの登録希望をとったり、市広報で登録者の募集を行ったりしている。

今年度学校支援ボランティアとして活動した人は約150名であった。時間を経て登録した人の中には支援ができなくなったり、逆に登録しているのに要請がなかったなどの課題もあり、人材バンクの見直しを始めたところである。SSVCが今年度活動をしなかった登録者に対して、登録の継続と活動内容の確認をしている。

(活動の様子)



### さあ～行こう！ 学校応援研修会

☆学校・家庭・地域が一体となって子どもの育成に取り組み☆

～講演とシンポジウムのお知らせ～  
平成21年2月18日(水)

講演テーマ 学校とボランティア・コーディネーターの役割と育成

講師 日本ボランティア学習協会代表理事  
**栗沼 寛(ひろき ひろし)さん**

<プロフィール>  
副都立大学を経て、英国CSV伊央島(社)日本責任者兼協会事務総長等を歴任し、国内・海外のボランティア振興計画や人材育成計画に携わる。

【経歴】  
都立女子大学人間社会学部専攻科、国立青少年教育振興機構理事、文部科学省中央教育審議会委員等、多岐にわたり活躍中。

【近著】  
『希望への力ー地域市民社会の「ボランティア学」』他、多数。



【内容】 学校とボランティア・コーディネーターの役割と育成  
第1部 講演  
第2部 シンポジウム

【会場】 教育センター1階 大研修室

【時間】 9時半～12時

【対象】 どなたでも

【費用】 無料です！

【申込み締切り】 2月13日(金)

※この研修をお申込みの際にいただいた個人情報  
は当研修に限りでのみ使用し、他に使用することはありません  
※ 裏面をお読み下さい

【主催】 狭山市学校応援推進委員会  
【後援】 狭山市教育委員会  
申込み・問合せ  
▼狭山市学校応援推進委員会事務局  
(社会教育課)  
TEL 2953-1111 内線5673  
FAX 2954-8671  
▼狭山市学校支援ボランティアセンター  
TEL・FAX 2927-1395  
(月・火・金の13時から16時)  
FAXでお申込みの方は、姓名を「218研修申込み」とし、氏名、電話番号、お住まいの地域、現在学校支援活動をしている場合は活動学校名とその内容を記入してください。

## ○留意点

- ・学校訪問時は、所定の腕章と氏名札を着用する。これは学校にとってはSSVCのメンバーであることが明確になり、またSSVC会員にとっては気持ちを引き締める上で有効である。
- ・学校からの連絡が円滑に行われるよう通信・連絡手段を明確にしている。
- ・学校行事にはできるかぎり参加すると共に、可能な限り登録ボランティアに行事への参加を呼びかけ、学校理解に努めている。
- ・担当校の教職員とは連絡を取り合い、定期的に訪問してコミュニケーションをとるように心掛けている。コーディネーターがボランティアとして学校で活動しているケースはコミュニケーションがとりやすい。
- ・学校の情報は口外しないなど、「個人情報保護」に関する注意とお願いの誓約書を渡し、規則遵守の徹底に努めている。
- ・既存の学校支援ボランティア（保護者等）と連携し、支援者をSSVC以外の地域の方にも広げていくよう広報している。
- ・新しい支援者には、面談をしボランティアとしての心構えや留意点等を説明し学校や活動理解に努めている。

(腕章と氏名札と名刺)



## 成果と課題

### ○成果

- ・やや閉鎖的であった学校教育現場に地域住民が入ることにより、地域に開かれた学校のイメージが大きくなった。
- ・学習支援を中心に行っているため、授業の充実が図られている。中学校での学習支援は学力にも個人差が大きくなるため、個人情報を守る必要もある。そのため、地元住民以外のボランティアに依頼するなどの工夫がなされている。結果として学校として依頼しやすくなり、活動件数も増えている。
- ・子どもは異世代の人と接して、視野が広くなり豊かな人間性の形成に貢献している。
- ・ボランティアが入ることによって教員に緊張感が増し、よい刺激となっている。
- ・地域の高齢者は子どもを支援しながら一緒に学ぶ姿勢がみられ、子どもたちから必要とされることによって、生きがいを見出している。

### ○課題

- ・コーディネーターはボランティアと学校とが対等で「協働」できる関係になるためお互いの悩みやとまどいを両者の間に入って解決することも重要な役割である。このため信頼感や豊かな人間性をもって、両者の思いやねらいを受け止め、効果的に支援をしていけるような人材の拡充と育成が課題である。
- ・担当教員が忙しくコミュニケーションがなかなかとれない。
- ・支援者は適任者の確保のため1か月位の余裕が必要である。